

朝葉末の

(第三期卒業生贈桜星会歌)

加藤義夫君 作歌
角倉邦彦君 作曲

一

あしたはすゑ
朝葉末の露を受け
ゆふべきてう
夕歸鳥の影宿し
あけぼのには
曙匂ふ石狩に
たま いすみ
玉の泉と湧きしより
おも
思へば茲に三歳の
過ぎにし水路を偲ぶ哉

二

たいき
大気は凍り雪もやの
あ
荒れし廣野の面をこむ
とき たか
時しも高く天界に
くわうほうつよ
光芒強き北極星
いさごとと光る星くづは
われ
我をばめぐり走るなり

三

わかがいろ
かつらの若芽色も濃く
もり せい
森に生氣の溢る時
てんち
奇しき天地の靈受けて
やまとこころ
大和心と咲き出でし
えぞ
蝦夷の深山の山櫻
われら
我等が理想此處にあり

四

くもはくばく
雲漠々に水ゆるぎ
おほの
大野の心我にあり
しんりもと
眞理求めて息まざる
くせん
久遠の望我にあり
しめうく
衆愚の聲にまどはざる
われ
我に男の子の覺悟あり

五

き
消ゆる榮華を夢に見て
むな
虚しき名をば人よ追へ
きた
北の荒野に三百の
けんじ
健兒浮雲を嘲りつ
とは
永遠に變らぬ美土に
つ
注ぎし汗の寶を求む

六

おうか
黄花的牧に新緑の
もり
森に鍛へよ鐵の腕
もみぢあや
紅葉彩どる野に山に
ふぶき
吹雪の里に思想鍊れ
つと
勉めよ奮へ我友よ
やがてぞ起たん時は來ん